

2023年7月1日

文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業 児童生徒【初任】」(R5年度)
公益社団法人日本語教育学会

「子どものための日本語教育研修(子ども初任研修)」 受講者募集

募集期間 2023年7月1日(土)～7月20日(木)

I 研修について

1 趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、2023年度文化庁事業「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」を受託し、外国人児童生徒等に対する日本語教師初任研修「子どものための日本語教育研修(略称:子ども初任研修)」を実施いたします。本研修では、文化審議会国語分科会(2019)「児童生徒に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」及び「研修における教育内容」に基づき、基礎的な内容を提供します。その目的は、外国人児童生徒等の背景や言語・学習環境、各地の受入れ・指導体制を理解して、キャリア支援や社会参加という視点をもって子どもたちの生活・学習に関連付けて日本語を教えることができ、マイノリティである子どもたちのエスニシティやアイデンティティを考慮した教育・支援を行うことができる人材を育成することです。

本学会は本事業で、児童生徒の教育・支援を行う初任日本語教師の育成を通じて、各地域の日本語教育・支援活動に貢献することを目指します。

2 研修実施期間

令和5(2023)年8月7日(月)～令和6(2024)年2月29日(木)

3 実施方法

(1) 概要

①3地域ブロックでの実施

次の3地域ブロックで研修を実施します。応募時にはいずれかのブロックを選択してください。

A. 北海道東北ブロック B. 南関東ブロック C. 近畿ブロック

②遠隔による実施

遠隔(以下、オンライン)により研修を行います。「オンデマンドの学習」と「オンライン同時双方向の対面学習(Web会議システムのZoomを利用)」を組み合わせた複合型の学習形態です。なお、実習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、教育・支援現場の視察等を実施する可能性があります。各地域の状況に応じて、最終的な実施形態を決定します。

③6つのクールに分けて実施

8月から2月末までの約7ヶ月の研修期間を、6クールに区分して実施します。各クールは、「オンデマンドの動画視聴による学び」「受講者各自の課題の遂行」「スクーリング（オンライン同時双方向対面学習）」で構成されます。この他、「**実習**」を実施します。

(2) スケジュール

①1～6クルールの期間・実習時期

＜スケジュール（目安）＞

クール	オリエンテーション	第1クール	第2クール	第3クール	第4クール	第5クール	第6クール
時期	8月7日(月)	8月	9月	10月	11月	12月	1月
				⇐ 実習(6単位時間) ⇒			

②スクーリングの日程

3地域ブロックで日程が異なります。応募するブロックの日程を確認して、お申し込みください。受講者には、スクーリングと実習の全てに参加することが求められます。

＜各地域ブロックのスクーリング・実習の日程＞

スクーリング等	北海道・東北	南関東	近畿
オリエンテーション	3ブロック合同で実施 8月7日(月)19:00-20:00		
スクーリング1	8月26日(土) 13:00~16:00	8月27日(日) 9:30-12:30	8月26日(土) 13:00-16:00
スクーリング2	9月16日(土) 13:00-16:00	9月24日(日) 9:30-12:30	9月16日(土) 13:00-16:00
スクーリング3	10月14日(土) 13:00-16:00	10月15日(日) 9:30-12:30	10月14日(土) 13:00-16:00
スクーリング4	11月11日(土) 13:00-16:00	11月12日(日) 9:30-12:30	11月11日(土) 13:00-16:00
スクーリング5	12月9日(土) 13:00-16:00	12月10日(日) 9:30-12:30	12月9日(土) 13:00-16:00
スクーリング6	1月28日(日) 13:00-16:00	1月14日(日) 13:30-16:30	1月27日(土) 13:00-16:00
実習 (6単位時間分)	①-③ 未定 ④-⑥ 1月6日(土) 13:00-16:00	①-③ 未定 ④-⑥ 1月14日(日) 9:30-12:30	①-③ 未定 ④-⑥ 1月6日(土) 13:00-16:00

※実習に関しては原則上記日程で実施しますが、実施形態・内容により変更の可能性があります。

(3) 研修活動の構成 : 60単位（講義・演習 54単位＋実習 6単位、1単位時間＝45分）

1) オリエンテーション

8月7日（月）19:00-20:00に、全地域ブロックの全受講者を対象に行います。

本研修コースの研修内容と実施方法等について説明します。

2) 講義・演習（54単位）

1 クールを9 単位時間とし、オンデマンド学習（3 単位）・課題の遂行（3 単位）・スクーリング（＝オンライン同時双方向対面学習）（3 単位）で構成します。6 クールで54 単位となります。

- ・オンデマンド学習では、動画教材による講義（視聴）を行います。（3 単位時間）
- ・講義後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行します。（3 単位時間）
- ・課題提出後、オンラインによる対面同時双方向のスクーリングで、課題の振り返りや発展的学習を行います。（3 単位時間）

3) 実習（6 単位）

各地域（ブロック）によって実施・内容・方法は異なります。6 単位時間実施します。

実習の内容・方法の例（2020～2022 の例）

- ・動画で、学校・地域の教室における教育・支援の実際の様子を観察
- ・日本語・学習支援教室で実施しているオンライン支援に参加・参観
- ・当該地域の学校・支援教室の参観（対面）
- ・オンラインで、支援教室で学ぶ子どもたちにインタビュー
- ・オンライン（zoom）で、模擬授業を実施（学習指導案作成・模擬授業の実施・振り返り）等

4 研修内容（シラバス：講義内容（動画教材））

児童生徒を対象とする日本語教育の基礎的内容に関する講義を受講します。受講方法は、オンデマンドによる動画教材の視聴です。

講義内容に関する課題の提出が求められます。スクーリングでは、受講者が提出した課題をもとに、各地域ブロックにおける子どもの日本語教育・支援の状況等に関する発展的な議論を行います。

<シラバス:講義(動画教材)内容>

	No.科目	項目	単
第1クール	1.外国人児童生徒等の背景・現状・課題(6 単位)	①外国人児童生徒等の現状と課題 ②外国人児童生徒等の社会的・文化的背景 ③外国人児童生徒等施策 ④地域の現状と課題(外国人集住地域・散在地域) ⑤学習権・不就学 ⑥多文化共生	2
		⑦地方自治体の受け入れ体制 ⑧学校の教育体制 ⑨地域の支援体制	
第2クール	2.外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク(3/6 単位)	⑩地域のリソースと社会的ネットワーク ⑪保護者との連携・協力 ⑫エスニック・コミュニティ	1
		⑬異文化適応 ⑭異文化間能力 ⑮自文化中心主義・文化相対主義 ⑯文化間移動とアイデンティティ ⑰生育環境 ⑱社会化	
第3クール	3.外国人児童生徒等の文化適応(6 単位)	⑲発達段階と言語習得 ⑳バイリンガリズム ㉑母語・継承語・第二言語	2

		㉒生活言語能力と学習言語能力(特別支援のニーズを含む) ㉓リテラシーの発達 ㉔言語能力の測定(筆記テスト、DLA等)	
	5.外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン(3/6単位)	㉕コースデザイン ㉖「特別の教育課程」による日本語指導 ㉗評価の対象と方法	1
第4クール	5.外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン(3/6単位)	㉘初期指導(サバイバル日本語・日本語の基礎) ㉙中期指導(技能別日本語) ㉚日本語と内容(教科等)の統合学習(JSLカリキュラム等)	1
	6.外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(6/12単位)	㉛事例分析 ㉜子どもの日本語教育の方法1(幼児・小学校低中学年の子ども対象) ㉝子どもの日本語教育の方法2(小学校高学年以上の子ども対象)	2
		㉞教材・教具の活用1(体験型教材・教具) ㉟教材・教具の活用2(教科書等の活用・著作権) ㊱教材・教具の活用3(ICT)	
第5クール	6.外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(6/12単位)	㊲子どものための音声指導 ㊳子どものための文字指導 ㊴子どものための文法指導	2
		㊵子どものための語彙指導 ㊶子どものための文章・談話指導 ㊷言語生活	
	7.社会参加のための日本語学習支援(3/6単位)	㊸キャリア教育 ㊹ロールモデル ㊺市民性教育	1
第6クール	7.社会参加のための日本語学習支援(3/6単位)	㊻進路選択支援1(進学) ㊼進路選択支援2(就労) ㊽社会活動への参加支援	1
	8.外国人児童生徒等のライフコースと日本語教師の成長(6単位)	㊾ライフコース 50 エンパワーメント 51 人権・社会的正義・公正さ	2
		52 実践の共有 53 対話と省察 54 専門家との連携・協力	

5 担当講師

< 講義担当講師 (動画教材) >

池上摩希子 (早稲田大学)・市瀬智紀 (宮城教育大学)・伊東祐郎 (国際教養大学)・内海由美子 (山形大学)・金田智子 (学習院大学)・川口直巳 (愛知教育大学)・河野俊之 (横浜国立大学)・齋藤ひろみ (東京学芸大学)・櫻井千穂 (大阪大学)・菅原雅枝 (愛知教育大学)・武一美 (NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ)・田中祐輔 (青山学院大学)・中川祐治 (大正大学)・中山あおい (大阪教育大学)・浜田麻里 (京都教育大学)・原瑞穂 (上越教育大学)・松本一子 (名古屋柳城女子大学)

< 研修スクーリング担当講師 >

北海道・東北ブロック

コーディネータ：市瀬智紀 (宮城教育大学)

南関東ブロック

チーフ (共同実施団体代表)：山田拓路 (NPO 法人メタノイア)

コーディネータ：齋藤ひろみ (東京学芸大学)

近畿ブロック

チーフ（共同実施団体代表）：住田伸夫（京都民際日本語学校）

コーディネータ：和泉元千春（奈良教育大学）

※上記のチーフ・コーディネータの他に、講師 2～3 名、事務補助員 1～2 名で研修を実施します。

II 受講者の募集について

1 募集人数

地域ブロック	北海道・東北	南関東	近畿
募集人数	20 名程度	30 名程度	30 名程度

応募者数が定員数を上回った場合、2. に示す応募資格・条件に鑑み、申請内容をもとに選考を実施します。7 月末日までに、選考結果（受講の可否）を通知します。

受講には、選考結果通知の受領後、8 月 5 日（土）までに、受講料の納入と同意書の提出が必要となります。

2 応募資格と条件

(1) 応募資格

- ・いわゆる「日本語教育の有資格者」で、児童生徒に対する日本語教育の経験が 0～3 年（初任）の者。または、これに準ずる者（詳しくはお問い合わせください。）
- ・現在、または将来的に当該地域の児童生徒の日本語教育に貢献する意欲がある者。
※受講については、これまで本研修（日本語教育学会実施の「子どものための日本語教育研修」2021～2022 年度実施）の受講経験のない方に限らせていただきます。

(2) 応募条件

- 1) オンラインの同時双方向対面研修、実習に出席できること。
基本的にはオリエンテーションを含め 6 回のスクーリング、実習の全てに参加いただきます。
- 2) オンライン上の研修を実施できる環境とスキルを有すること。
Web 会議システム（Zoom）による研修への参加やクラウド上での情報交換のための通信環境については、受講者ご自身で整えていただきます。
- 3) 実施した課題の共有や、スクーリングでの意見交換に積極的に参加すること。
スクーリング・実習では、本名・カメラオンでご参加いただきます。
- 4) 母語、国籍は問いませんが、日本語でのグループでの作業や話し合い等に支障がない程度の日本語の力を有すること。
- 5) 知的財産権、人格権（個人情報守秘や肖像権の配慮等）について理解し、行動すること。
例えば、本研修で提供する著作物の無断流用等は著作権侵害に当たり、認められません。
- 6) 参加にあたり、研修実施の妨げとなるような行為や言動を慎むこと。

※受講決定後に、上記の条件に関する同意書をご提出いただきます。

3 受講料

受講料は、10,000 円です。

遠隔による研修において、受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自のご負担となります。また、実習の一部を実地で行う可能性もありますが、それに係る交通費、必要な文具類などについても自己負担となります。

なお、受講料の支払い方法等については、受講決定後に改めてご連絡します。

4 修了要件・修了証

次の要件を満たした研修受講者に修了証を授与します。

- ・研修に 2/3 以上参加していること。
- ・提出課題、及びスクーリングの活動において、目標を概ね達成できていること。
- ・実習（6 単位）に参加して課題を提出していること。

5 応募方法

下記の URL より Google フォームに必要事項を記入して、送信してください。

（募集期間：2023 年 7 月 1 日（土）～7 月 20 日（木））

「子どもの日本語教育研修（子ども初任研修）」受講申込フォーム

URL：https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScujHV89vid0S6Pc6qMMZ4ww0Yz0Gw2rFx1rt-xEItcHGUnsw/viewform?usp=sf_link

6 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 「子どものための日本語教育研修事務局」

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F

E-mail: bunka-shonin@nkg.or.jp（担当：奥山）

※ 担当者が在宅勤務等で不在の場合がございますので、お問い合わせはなるべくメールでお送りください。お問い合わせの回答に少々お時間がかかる場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお願ひいたします。